

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済対策等の効果により企業業績に改善の兆しが見られましたが、厳しさを増す雇用情勢に加え、海外経済の減速懸念や急激な円高等により、景気の先行きは不透明な情勢の中で推移いたしました。

このような経営環境の中で当社グループは、コア事業である調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先した店舗運営を進めるとともに業容の拡大に向け取り組んでまいりました。医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の普及促進が推進されている状況下を好機と捉え、積極的な営業活動を推進してまいりました。また、ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームを今後の成長エンジンと位置付けし、今期から3年間で10施設の開設を経営目標として積極的に展開し、安定的な成長に向けて取り組みを強化してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高13,388百万円(前年同期比4.2%増)、営業利益740百万円(前年同期比2.9%増)、経常利益696百万円(前年同期比9.4%増)、四半期純利益390百万円(前年同期比23.3%増)となり、いずれも順調に推移いたしました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、平成22年4月に薬価改定及び調剤報酬改定が実施され、業界全体に影響をもたらしました。当社では、患者様の満足度の向上を図るとともに、経営の効率化を推進する中で収益力の向上に取り組んでまいりました。その結果、既存店舗では処方箋応需枚数が増加し、売上高は前年を上回り、売上高12,400百万円(前年同期比3.9%増)、営業利益941百万円(前年同期比4.0%増)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の普及促進策が進められる中で、売上高488百万円(前年同期比2.1%増)、営業利益32百万円(前年同期比5.1%減)となりました。(内部売上高を含む売上高は663百万円となり前年同期比6.2%増加。)

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、既存の介護施設3施設に加え、平成22年8月にハーモニーハウス出雲(島根県)を開設し、現在、平成23年2月にハーモニーハウスいなべ(三重県)、平成23年6月にハーモニーハウス伊賀(三重県)の開設に向けて取り組んでおります。開設に伴う費用を計上したものの、既存の4施設が順調に推移した結果、売上高442百万円(前年同期比16.5%増)、営業利益46百万円(前年同期比18.6%減)となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、安定した賃料収入により、売上高56百万円(前年同期比2.3%増)、営業利益29百万円(前年同期比4.4%増)となりました。

なお、セグメント間の内部売上高として178百万円(前年同期比17.9%増)を消去するとともに、全社における共通経費とし309百万円(前年同期比1.3%増)を計上しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は12,258百万円となり、前連結会計年度末と比較し1,396百万円増加いたしました。

流動資産の合計は5,310百万円となり、前連結会計年度末と比較して770百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加500百万円、及び売掛金の増加149百万円によるものです。

固定資産の合計は6,947百万円となり、前連結会計年度末と比較して625百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産の増加290百万円、投資その他の資産の増加380百万円によるものです。

負債総額は8,677百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,123百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加247百万円、及び長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加684百万円によるものです。

純資産は3,580百万円となり、前連結会計年度末と比較して272百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益390百万円、配当金の支払額67百万円によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の四半期末残高は2,391百万円となり、前連結会計年度末と比較して500百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は639百万円(前年同期は710百万円の増加)となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益731百万円、仕入債務の増加額245百万円であり、主な減少要因は、売上債権の増加額149百万円、法人税等の支払額468百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は693百万円(前年同期は153百万円の支出)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出437百万円と、長期未収入金の増加による支出358百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は554百万円(前年同期は65百万円の増加)となりました。主な要因は、長期借入金の純増加額684百万円と配当金の支払額67百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成22年4月7日に公表しました数値を修正しております。詳細につきましては本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、一部実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

③ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、原則的な方法によっております。繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に大幅な経営環境の変化がないこと、また、一時差異等の発生状況に著しい変化がないことが認められるので、前連結会計年度末に使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。